

中国を代表する芸術家 劉建華（リュウ・ジェンホア）による日本初の個展

リュウ・ジェンホア

## 劉建華 中空を注ぐ

会期：2023年6月24日(土) – 11月19日(日) 十和田市現代美術館



十和田市現代美術館では、2023年6月24日(土) – 11月19日(日)まで、上海を拠点に活動している劉建華<sup>リュウ・ジェンホア</sup>の個展を日本で初めて開催します。

当館では、人が寝そべることができる大きな緑色の枕《痕跡》(FRP)を、2010年から常設展示しています。2011年には、東日本大震災復興のチャリティー展「Hearts Towada Exhibition」に参加いただきました。本展の「中空を注ぐ」に出展する作品は、劉が制作初期の頃から用いている「磁器」で制作されています。劉は彫刻を大学で学ぶ前に、磁器工房で職人となりました。劉は、日用品としての「磁器」の用途や形を解体し、中国における経済や社会の変化、それに伴う問題を作品のテーマとしています。劉は、中国のアーティストの中で磁器を素材として現代美術の中に持ち込み、実践した先駆者でもあります。劉の原点でもある儂い「磁器」を通して、空虚さに満ちた現代を語っていきます。

本展の中核をなす作品として、《遺棄》(2001-2015年)を展示します。展示室の床には、テレビや靴、ペットボトル、タイヤなどの磁器で作られたさまざまな日用品が打ち棄てられています。日用品は、劉や家族、友人が使用したものから型を取り制作されています。この作品は、劉が磁器という硬くて脆い素材をはじめて使用し、作風の転換点となりました。磁器の脆さが日常生活の儂さを示し、現代社会の廃墟のようにもみえる作品です。

2022年に上海復星芸術センター(Fosun Foundation Shanghai)で展示された最新作《塔器》を、日本で初めて展示します。《塔器》は、白い塔に取り付けられた棚に器が並べられています。劉は、「塔」が古代から仏教文化において舍利を納めた精神の象徴であることや、中が空洞という「器」のかたちに注視し、この作品を制作しました。伝統的なかたちや用途から解放された磁器と向き合うことになり、この場の意味が空虚になるようでもあります。

メインとなる展示室では、床一面を埋め尽くす《遺棄》の中に《塔器》が展示されることで、虚と実の間を行き交うというそれぞれの作品のコンセプトが深化させられます。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)

## 【作家メッセージ】

2010年の春、十和田市現代美術館の屋外に常設作品を展示するために、初めて美術館を訪れました。十和田は気温も暖かく、花も咲き、白い美術館は青空と白い雲に映え、自然の中に白い箱が優雅に林立していました。その静謐さとシンプルな美しさがとても印象的でした。2011年3月11日の東日本大震災後には、\*美術館から提案を受け、作品を寄贈しました。今回、日本初の個展を十和田市現代美術館で開催でき、美術館を訪れた方が作品を通して新たな体験を得ていただくことを楽しみにしています。

この展覧会は、2001年から2022年の21年間で制作した、磁器による6作品を3つの展示室と廊下で展示しています。私は創作活動において、銅、石膏、木材、石材、ステンレス、金属、レディメイド、ガラス、映像など、様々な素材や表現を試みてきました。その中で磁器は核となる素材であり続けています。それは14歳の時に中国の景德鎮陶磁器工房で働いた経験によるものだけでなく、自分がアーティストになるにつれ、磁器が伝統的な素材にとどまらず、現代美術の素材として豊かな可能性を持ちうることに気づいたからです。長年にわたる私の作品は、磁器の可能性を広げることをも示しているのかもしれませんが。

磁器は、中国人が発見・創造し、世界に広めていきました。宗教、文化、哲学、建築、芸術などの多くの分野において、中国と日本は古代から相互作用の関係にあります。日本でも磁器は様々な時代で盛んに制作され、その技術はとても素晴らしいと思っています。私は、古代から現代までの芸術領域で磁器がどのように表現されているか思考しながら、磁器という伝統的な素材について新しい感覚と考え方を鑑賞者に与えたいです。

私は、作品が日本の鑑賞者と深く交流してほしいと思っています。

\*東日本大震災復興のチャリティー展「Hearts Towada Exhibition」(2011)

## 劉建華 (リュウ・ジェンホァ)



1962年吉安(中国)生まれ、上海(中国)在住。1989年景德鎮陶瓷大学卒業。2004年より上海大学美術学院の教授。主な個展に「Liu Jianhua: Metaphysical Objects」(Fosun Foundation Shanghai/上海、中国、2022年)、「Liu Jianhua」(Pace Gallery、パロアルト、アメリカ、2019年)など。主なグループ展に第14回光州ビエンナーレ(韓国、2023年)、第57回ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア、2017年)、奥能登国際芸術祭(石川、2017年)など。主な収蔵先に、ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター、テート・モダン、ニューヨーク近代美術館など。

## 【パブリック・プログラム】

劉建華 トーク ※中国語から日本語への逐次通訳有り

日時：6月24日（土）13:00-14:00

会場：十和田市地域交流センター（とわふる）

[住所：青森県十和田市稲生町 16-1]

料金：無料

学芸員によるギャラリートーク

日時：7月22日（土）、8月26日（土）

11:00-12:00

会場：十和田市現代美術館 企画展

料金：要企画展チケット

※上記パブリック・プログラムに参加される場合は事前予約が必要です。

※上記の他にも、会期中にパブリック・プログラムを予定しています。詳細は後日発表します。

## 【開催概要】

展覧会名： 劉建華（リュウ・ジェンホア） 中空を注ぐ

会 期： 2023年6月24日(土) - 11月19日(日)

開館時間： 9:00 - 17:00（入場は閉館の30分前まで）

休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）

※その他の休館日、臨時開館日などの情報はwebサイトにてご確認ください

会 場： 十和田市現代美術館

観 覧 料： 一般1800円（常設展含む） 高校生以下無料

主 催： 十和田市現代美術館

協 力： 株式会社パシフィック ハウス テクスタイル

後 援： 青森朝日放送、青森テレビ、青森放送、エフエム青森、デーリー東北新聞社、東奥日報社、  
十和田市教育委員会

企 画： 見留さやか

## 十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

## 【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com)

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



《遺棄》2001-2015年、磁器、サイズ可変  
© Liujianhua Studio



《痕跡》2010年、FRP、240×125×50cm  
撮影：小山田邦哉 © Liujianhua Studio



《塔器》2021-2022年  
磁器・木・石英砂、サイズ可変  
© Liujianhua Studio



《白紙》2008-2019年、磁器  
200×120×0.7cm  
© Liujianhua Studio



《兆候》2011年、磁器、サイズ可変  
© Liujianhua Studio



《水中倒影》2002-2003年、青白磁・照明  
1000×50×10cm  
© Liujianhua Studio



《儚い日常》2001-2003年、青白磁  
サイズ可変  
© Liujianhua Studio



劉建華



十和田市現代美術館

媒体名 \_\_\_\_\_

媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 ( \_\_\_\_\_ )

御社名 \_\_\_\_\_

御担当者名 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

## 【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 [press@towadaartcenter.com](mailto:press@towadaartcenter.com) [www.towadaartcenter.com](http://www.towadaartcenter.com)